

再会の願い、届かず

イラク日本人殺害事件

最愛の息子は、イラクで未来を絶たれた。武装組織に拘束された香田証生さん(三巴)は三十一日、無残な姿で見つかった。事件発覚から四日。

悲しみ「いらえ」「ご迷惑を」

両親、怒り口にせず

自衛隊撤退を拒否されたための凶行か。帰国を信じ続けた父と母、そして兄。悲しみをこらえ「イラクに平和を」と願いを込めた。「断固たる姿勢でテロとの闘いを継続する」と小泉首相。自衛隊の安全は、重い課題が突き付けられた。

「皆さんに非常に迷惑をおかけしました」。家族に悲報が届いた三十一日。最愛の息子香田証生さん(三巴)を失った父真澄さん(五巴)と母節子さん(五〇)は、沈痛な様子で声を絞り出した。福岡県直方市の香田さん(三巴)の実家に「アジア系男性の遺体発見」の情報が入ったのは、この日早朝。同市は幹部二人を派遣したが、両親が別室から出てくることはなく、静まり返る家の中で時間だけが過ぎていった。「遺体を証生さんと確認した。」と迷惑をおかけして、両親の代わりにや



31日、香田証生さんの遺体が発見されたバグタッド市内の現場に残っていた血痕(共同)

ついでかねばならないと市を通じて、おわびと決意を感じた」と同時にイラクの平和を願う部長。一家は同日午後、メッセージを公表した



両親と面会し、香田証生さんの実家(中)を後にする向野敏昭・直方市長(左)＝31日午後、福岡県直方市

家族メッセージ全文

福岡県直方市が三十一日、記者会見で明らかにした香田証生さん(三巴)の家族のメッセージ全文は次の通り。支えていただきました多くの方々に変なご心労をおかけしましたことを心からおわび申し上げますとともに、お礼と感謝の気持ちでいっぱいです。このようにはなりませんが、イラクの人たちに一日も早く平和が訪れますようにお祈りいたしております。

が、これも真生さんが両親と相談して作成したものであった。同市によると、家族が現地入りするの、遺体(三巴)は「証生には、これの到着を日本待つかからは心配掛けた両親のなどについては、今後家そばにずっといてあげよう、と行ってあげたい」と話したとき、言葉が続かなかった。

「心情分かる」

橋田さんの遺族ら香田証生さんが殺害された事件に、今年五月にイラク中部で銃撃されて死亡したフリージャーナリスト橋田信介さん(当時三〇)の関係者は三十一日、悪夢を思い起こし「遺族の心情が手に取るように分かる」と、やるせない思いを口にした。

星条旗にくるまれ

【バグタッド31日共同】小泉宏尚(香田証生さん(三巴)の遺体は三十一日午後九時(日本時間三十一日午前三時)ごろ、武装勢力と米軍が衝突を繰り返し、バグタッドで最も治安が悪いといわれるハイファ通り近くで見つかった。バグタッドの救急隊員によると、遺体は

手縛られ 無残な姿

星条旗(米国旗)にくるまれ、手足をそれぞれ縛られていた。地面には直径三十センチほどの血痕が生々しく残り、殺害後間もなく遺棄されたことをうかがわれた。ハイファ通りから約百五十メートル入った人通りの少ない道路。遺体を搬送した救急隊員によると、道沿いに生い茂るナツメヤシ畑近くの歩道上に切断された首と胴体が放置されていた。血痕など現場や遺体の状況から、死後へ強い「警告」のメ

され、道路側を向いて頭部が背中に置かれていた。救急隊員は「通行人によく見えるようにしたのだろ」と話した。同隊員によると、遺体は両手を後ろ手に縛られていた。発見者の警官らによると、遺体はTシャツにタークブルーのジーンズ、中国製の下着を着用しており、Tシャツには血のりがべっとり付着していた。血痕など現場や遺体の状況から、死後あまり経過していないようだったという。